

昭和三十三年三月二十四日招集（第五日）  
第一面定例会々議錄



昭和三十三年館山市議会才一回定例会会議録(才五日)  
一昭和三十三年三月二十四日午後二時館山市議会才一回定例会才五日  
を館山市役所分館会議室に招集

一出席議員(三十三名)

一 番	石 井 梁	二 番	高 橋 文 治
三 番	伊 勢 仙 之 助	四 番	小 浜 光 義
五 番	後 藤 ゆ き	六 番	秋 山 万 次
八 番	金 木 久 一	九 番	安 西 政 治
一〇 番	田 中 禄 郎	一一 番	脇 田 順 一
一二 番	吉 田 勇 治 郎	一三 番	小 沢 太 助
一四 番	中 村 良 五	一五 番	小 谷 無 達
一六 番	田 村 喜 兵 衛	一七 番	嶋 貫 壮 作
一八 番	佐 久 間 為 次 郎	一九 番	黒 川 佐 太 郎
二〇 番	山 口 房 治	二一 番	萩 生 田 七 郎

二二番 小沢 恵太郎 二三番 福岡 保徳

二四番 山本 昇 二五番 松本 藤太郎

二六番 可世木 芳蔵 二七番 鈴木 孝

二九番 遠山 三子 三〇番 磯辺 周雄

三一番 大野 清五郎 三二番 望月 暉作

三三番 田中 忠蔵 三四番 館田 義男

三五番 嶋田 繁

一欠席議員(二名)

七番 鈴木 市蔵 二八番 山口 康

一法才二百二十一条による出席説明員

市長 田村利男

助役 小出武男

収入役代理 眞田森吉

総務課長 兒戸 貴

保險課長

唐又貞太郎

商工水産課長

羽山房雄

送管書記長

渡辺 茨

建設課長

新井重助

農産統計課長

吉田耕一

秘書課長

山谷潤昶

福祉事務所長

長谷川 云治

厚生課長

神作啓次郎

戸籍課長

高木哲三

税務才一課長

山口 奥

税務才二課長

伊藤幸太郎

診療所事務長

池田亮山

消防署長

安藤龜吉

教育委員会教育長

工藤和平

警務委員会庶務課長 鵜沢貫寛

監査委員 関 武夫

一本議会の事務局長、書記および職員

事務局長 高梨清一

書記 太田博雄

職員 畑中弘敬

同 山口晴之

昭和三十三年館山市議会才一回定例会議事日程(才五号)

昭和三十三年三月二十四日午後二時開議

日程才一 陳情書

日程才二 議案才二三号 危険校舎の処分について

日程才三 議案才二四号 市有財産の処分について

日程才四 議案才二五号 昭和三十三年度館山市文入文出追加更正予算

日程才五 議案才二〇号

議案オニ二号 特別委員長報告

議案オニ三号

一、会議に付いた事件

議事は日程に同じ。

議長(石井潔君) 本日の出席議員数三十二名、こいよりオ一回  
定例会オ五日の会議を開会いたします。

議長(石井潔君) 本日 議長の手許に陳情書一件および追加議  
案として議案オニ十三号ないしオニ十五号の三議案が送付さ  
れてまいりました。

この際お諮りいたします。この四件を本日の日程として  
ただちに議題といたします。と御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井梨君)御異議な—と認めます。

よって本日 of 日程は追加せしめ—た。

議案を配布いたさせます。

(議案配布)

○議長(石井梨君)本日 of 議案はお手許に配布 of 日程表  
によつて行います。

○議長(石井梨君)日程オ—陳情書、

(書記朗読)

陳情書 布良救難所援助について

○議長(石井梨君)お諮りいたします。

御趣旨は原文によつて十分承でるように思ひ  
れますので本陳情書採択することに御異議ござい  
ませんか。



(「異議な—」と呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君)御異議な—と認めます。

よって採決の上市長の手許へ送付いたします。

○議長(石井潔君)つづいて日程才ニ議案才二十三号を上程  
いたします。

(書記朗読)

議案才二三号 危険校舎の処分について

。教委庶務課長(鵜沢貫覚君)議案才二十三号について御説明申上  
げます。

これは西小學校の講堂建設委員会からの申入りによ  
りましてこのうち一般校舎給食室湯沸場は新—  
く新築されました。校舎に付随して取りこみされるの  
でございします。講堂だけが残っているわけでございます。

一 備 考 書  
がこいも取こりーまーて講堂建設委員会で新しい講堂を建設ーたいのでこの資材を払下げてもらいたいというものでございます。この費用等は全部講堂建設委員でもちまーて市からはそれに要する資材廃材を寄付するという議案でございます。

なお新しい講堂の規模でございますが間口六間の奥行十一間 総坪数六十六坪でございますーてこいの建築につまーては委員会の技師が指示いたーまーて地元の職工組合において建設するというものでございます。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○三番(伊勢仙之助君)そうーますと建設委員<sup>会</sup>の性格と申ーまーようか市のものを建設委員会に寄付ーて建設委員会で建ったものをもた逆に市の方へ寄付する、そういうふうな形をとらいるんじゃないかと思ひますが

新しいケースで逆の場合に寄付を——なくても建設委員会に作らせて運んでもらう、たものをそのまゝ市で受け入れても同じなんですがなぜ建設委員会にわざわざこうい、たもの<sup>（実際は）</sup>をやらなければいけないかという点をあ尋ねたいんですがやるやらないに係わらず委員会に作らせるということだと思いますが講堂の所有権という問題で委員会の方に任かせないで将建設委員会が講堂の管理権を持つ、たんだとそういう将来の考え方があれば別なんですが作つたものを市に寄付するという形をとられれば寄付というようになことでな——に当然建設委員会がつくっていい性質のものですがその点のところを御説明ねがいたいと思います。

さうにこの取りまわしたものを価格に見積つたらどの

程度のものか、新しく建てる講堂の費用はどの程度かかるものかお伺いしたいと思います。

。教務庶務課長(鵜沢貫覚君)御説明いたします。

考え方としては三番議員さんのおっしゃった通りなん  
でございしますがこれは廃材だけで作って建設委員会  
の方である程度の新しい材料を入れなければできません  
のでそういう関係でこうした手続をとったのであ  
ります。

工事費でございしますが大体六十万でございします古材の  
見と価格でございしますが大体坪四千円ない一五千円と  
みまゝで百四、五十万くらいではないかと思ひます。

。二番(吉田勇治郎君)この問題につきまゝでたまたま近く  
であります関係上みたりきいたりという見地から  
一番状況を把握しておりますのでちょっと御説明申上



度の財源を父母が拠出して貯えてあるという見地からこのうちで使えるものがあつたら使わせていただくいま普通教室を建ててさらに市当局に講堂あるいは特別教室をおねがいしても到底できない。またおねがいしたのであるが講堂は駄目ということになりましてどうせつくるならば全部その資料の使えるものは使わせていただくので十二間の六間半この案に落着いてあと足らないところをさらに拠出してあの講堂は御賢の通り時代のことばでよくよろめくといひますけれどもいておりますので地元としましてはこの材料を使えるだけ使わせていただくに足りない材料を買って建てるというふうに決つたのであります。御承知の通り三百四軒一がありますせんが平均にして六百なにかという金になりますすが足りない分だけが六百なにかの拠出で

あります。それを建設委員会の方々が骨を折られて各部落に割り当てられてなんとかこの材料を使わせていただくという決意になっております。

本筋からいいますれば私たちとしてはこの材料を使って市当局が全部建ててくれるというのが当たり前じゃないかと思うのですが財政が許さない関係上地えで段取りをしておりますのでひとつこの案につきましてもよろしく実情を御賢察の上御賛同を得たいものと考えるものです。

なおわかり得る程度のこととは地えでみております関係上もし聞かれてわかるところは私も補足してもいいと思えます。以上述べたような決意でありますのでよろしくおねがいしたいと思います。

○三番(伊勢仙之助君) 話の筋がさっぱりわからないんで困るんで

すが委員会としてではこういうケースをとられるとすればはじめてのことでありまして考え方としては講堂特別教室というようなものは教育委員会が責任をもつて建てるんだという方向が正しいんじゃないかと思うんですが、これだけの資材があってもちろん使えないところもありましてうけけれども実際に西小学校の講堂は悪いです。そういう点から管理費が少ないと本会議かう~~い~~んでいるんですが多少なりとも地元で寄付していただければ委員会で責任をもつてつくってあげるといふ方法が正しい行方だと考えるわけです。

資材の見積方が非常に困難であつてさ、その説明では百四、五十万建てるものが六十万くらい余分に寄付するんだといふうにとれるんですがそういう



ことになってきますとまた問題があるんでそこ  
う辺になんかカラダリがあつて特別な話合ひでもあ  
るようにみられるんですがそういう点についてもう  
少一真情をお話ねがいたいと思うんですが寄付され  
る段階と建てるべき価格との差というふうなもの  
が実質的に地元からどのくらい負担される額になる  
かというふうなことをお尋ねしたいんですが委員  
会の方え存として将来こういう特別のケースが出た  
場合にひとつの慣例をつくることになるのでそういう  
ことについて委員会でもどのように協議されまうたか  
その点の経過も説明ねがいたいと思います。

○教育長(工藤和子君) いまの御質問の委員会の考え方とい  
うお話でございますのでその考え方を申し上げます。  
西小学校の講堂の建設につきまうては庶務課長か

うお話申上げましたような経過で一応学校の建物の管理は委員会の仕事でありますので一切合切委員会でやろう。こういう線も出たのでございますが地えでますというのであれば私たちも責任は不委員であるけれども建設委員会にやらせてもいいじゃないか、一か一実質的にはやはり委員会の技師の手によって監督も一工事も進めていくこういう考え方でございまして。従いまして将来につきましてはいろいろなケースが発生するんであります。ようがそのつど十分研究いたしましてわかれの責任においてできるだけ工事を進めて行きたい。こういうふうにしてたいと思います。

○三番(伊勢仙之助君)古材の価格の見積りの裏について……  
 実質的にその古材を例えば入札公売にして売却した



差額というものをどういうふうにお考えになりますか。その点お聞きたいと思います。

。教委庶務課長(鵜沢貫覚君) 私の方の考え方としてはあくまでも講堂を建てるためにその資材をやるのであつてほかの計画にはこの資材を使つてもらつては困るということを建設委員会に申し入れてあります。

。三番(伊勢仙之助君) 私たちが常識的に考えればこれだけの資材があればこれを売却して新規のものを西小學校に教育委員会独自で建てやっても差支えないんじゃないかというような考え方が出るんですがそういう点についてお考えになりましたかどうか、その点のからみ合せをひとつ御説明ねがいたいと思います。

。教委庶務課長(鵜沢貫覚君) お答え申し上げます。

委員会では推定いたしまして、その価格はあくまで推定価格で

ありましてこれが果してこの値段に売れるかどうかと  
いうこともわかりません——委員会で売却して建てよ  
うという案は出ませんでした。

三番(伊勢仙之助君)推定価格というものを何によって推定  
されたかということが問題になってくるんですが少なく  
とも権威のある委員会でありますから推定価格に——て  
ももちろん推定価格でありますからかなり誤りがある  
うと思います。三十万、三十万という大きな額はそうない  
いやないかと思うんですが売さばその価格と建てるもの  
との差額という点についてこの問題には裏にアヤがあ  
るように解するんですがそういう点について公開の席  
上で申上げられないといわれれば別問題ですがなんか特  
別の取引があってこれを建てればほかもどうかという問  
題があるんじゃないかと一応われわれは先のことを考え

るんですが、そういう桌について、さくばらんにおっしゃっていただければ、話の状況によつては、地元が無理をするというやうなことがないやうにしたいと思ふんで、實際に困つてゐるものなり、ほとんど建ててやっていた、さうな思ふんで、すがいずれに――ても講堂を建てるということ、これは全面的に賛成である――特別教室で困つてゐるということ、について、これも建つても、ううことは賛成ですが、建て方について、西小学校に限つて、市が全面的に金を支出してやるということは、悪例でなくて、われわれがみたら、前例なんです、が、ほかの学校を建てる場合に、問題があるという考へ方から、こういう形をおとりになつたかどうか、その桌をいふ少――御説明ね、が、いたいと思ひます。

教委庶務課長(鵜沢貫覚君)お答えいたします。

これは別に伊勢さんのおっしゃるやうな裏になんにも

アヤはございません。古材は現在屋根に使っており、厚板スレート、土台柱、合掌等は使用し、まゝで六十万の内容容は新材といたし、まゝで床板、天井、基礎のコンクリート、雨とい、教室内の塗装、モルタル、仕上げになりますので、そういうものが六十万の工事費ということになっております。○三番(伊勢仙之助君)どうしますと講堂を建てるのにいくら総経費はかかるんですか、その点改めて質問いたします。

○教委庶務課長(鵜沢貫覚君)建設委員会の方で支出いたします費用は六十万です。

○三番(伊勢仙之助君)それは総経費であるというふうに解してよろしいでしょうか。

○教委庶務課長(鵜沢貫覚君)古材を除き、まゝで総経費です。(古材を除いたですかと呼ぶ者あり)そうですね。

結局このほかに古材を使うわけです。

九番(安西政治君) 私も地元で大体わかっているのですが以上のことを総合いたしましてつぎのように解釈してよろしいのですか。現在ある校舎をこわせば例え危険校舎であってもある一部は使えるんでその材料を使うことによつて地元の建設委員会が六十万のいわば工賃ないはずかの資材費こういうったものをもてば講堂ができるからというやり方でやるんだ。こういうふうな解釈のもとでよろしいのですか。

教務庶務課長(鶴沢貴覚君) その通りでございます。

三番(伊勢仙之助君) 一つこいようですがやはり自分が文教関係をやっている以上こんごの問題に影響するんではお尋ねしているんですが古材を売却してみようという考え方が越りなかつたんでしょうか。売却した場合にどの



くらい金にならんだというような寄付なされるか  
らには一応その裏はお考えになつてゐると思つて  
が私たちとしては物をくれるに―てもどのくらい  
の価格のものもくれるんだということとはオーに  
くるわけなんですがその裏はどうお考えになつたか  
ということが

こんごこの一つの例をとりますとほかの学校でも  
危険校舎をやつた場合に特別教室その他が悪いので  
建設委員会に寄付してくれ、―て建設委員会が建  
てる。そういうケースがかならずでくると思ひます。  
なぜこ  
ういうことを申上げるかというところ現在の營繕費とい  
うものが非常に少ない。これをカバーするのになんか  
―う  
いた特別のことを考へなければ学校の講堂その他  
のものがすぐ間に合うように建ていかないということに

なるわけなんです。が、もしほかの、で、こういうケースが出た場合、にどのようなお考えであるか、二点をお尋ねしたいと思います。

○教育長(工藤和平君)お答えいたします。

西の学校の場合はいろいろ申し上げましたように学校の教育上、どうしても必要であるという必要性を、私どもは慎重に研究いたしまして認めたいわけでございます。その間、なんらうーろめいたような取引さといったような不純なもの、は絶対ございません。なお、こんごの問題といたしましては、そのつどこれに似たケースがありまして、慎重に処理して行きたい。こういう考えを持っております。

○三番(伊勢勢仙之助君)一番肝心の西格の点について、推定価格をお立てになる場合に、どういう方法によってお立てになりまして、その点についても御経過を説明ねがいたいと思います。

○教育長(工藤和平君)危険校舎の取こわしでありますのでーかも  
あそこは汐風の強いところでありまして腐蝕度も非常に  
わいわいのわかないところにあるというふうな観念  
から池田技師に専門の立場で推定させたのでありますけ  
れども委員会といたしましては将来とも専門家に見積  
らせるよりはかに手はないと思います。

○三番萩生田二郎君)私はこの校舎の建設そのものには賛成  
でありますがいま三番議員がおっしゃった通りひとつの  
テストケースとしてこう言うことをやるんだ。新しいミステ  
ィをつくることばいいか悪いかということについてもう少し  
検討の余地があるんじゃないかと思うんですが例えば当局  
が推定価格とおっしゃったんですが推定価格によると百二十何  
万さらに地元が六十万を負担するとなると百八十万となる。六  
十坪は約三万坪の単価になるということは新築でできる

んじゃないか。新しい材料でもどつくりいでできると推定されるんであります。ただ問題はたくさんの子供を置いてえん收容するんでありますから古材によっていかに当局は監督するとしてもやはり建設の指導権といひます。カイニシアチブは講堂建設委員会が持つんであつてその委員会において建設されるんでありますから危険のある場合にどうしろと強く要求することができるかどうか。そういうことを考えた場合にむしろ三番議員という最高価格で古材を売却して地元の寄付を得て教育委員会の責任において建設するやり方が従来の例でもある。将来こういう新しいテストケースを打出すにも危険性も避けられる。こんなふうに思ふんで素人考えですがその点につきまゝて当局が確信をもつてこういう新しいケースを打出していく。将来も必要があつたらう。こういうケースを採用するといふ

御意思かどうかという点をいまだ一度御説明ねがい  
たい。

○教育長(工藤和平君)お答えいたします。

西小学校の建築はあくまでも実質的に教育委員会  
責任を持ち督励——完成させるというのであります  
形の上では多額の地元の寄付を出すところの建設委員  
会に~~あ~~っていただきます。こういう考え方であります。

なお将来のケースについてはそのつどいまのお話なんか  
も十分織り込んで慎重に考えて行きたいこう思います。

○二番(吉田勇若郎君)この廃材の件について西小の講堂の件は  
いろいろと協議されておりますが御説ごもっともで私た  
ちと——ま——では本然の姿でやるということになればこれが  
一番いい寄付金を出して教育委員会ですべていくというこ  
とになるとして本来ならば普通教室と一緒にやるのが当然だ

とこう信じているのでありますが、現在の事情ではできないという御返事からして地元としましてはこの建設委員会がとくに献身的にただ作為的にこれをどうこうするとうい問題じゃなくして西小学校は御賢の通り普通教室以外にはなんう付帯した施設はない。ただ誠意をもってこの講堂をつくりたい。こういうことは地元の要望であつておねがいすることは熱意に對して誠意ある処置をとつていただきたいということをとくに事情を把握して、いゝる議員としましてここに切望して本案のよろしく善処されることをおねがいするものです。

○三番(伊勢仙之助君)私は地元の人が多額の費用を出すという方が納得行かないんですが、教育の特殊性で西小学校はどいうしてもやらなくちゃいけないんだといった場合に地元の寄付なうで全面的に市でもって金を出して建てやうて

当然じゃないかと思うんですがこの古材を売却して  
地元の寄付な一に六十万以上の価格で売却ができるという  
見通しがつけばそういう措置をとってやって建ててやる  
ことが一番いい方法ではないかと考えるのでありますがこの  
点についてそういう方法は間違いだという御見解があ  
れば委員会の方の意見を伺いたいと思います。(休憩  
ねびいます)と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)ーしばらく休憩いたします。

午後三時二十五分休憩

午後三時五十七分開議

議長(石井潔君)休憩前に引続いて会議を開きます。

一八番(佐久間為次郎君)ただいま審議してあります議案は十分

議論があるように思われますのでこれを文教委員会に付託されて文教委員の方々がゆくり御審議をお願いしたいと思います。

お諮りいたします。(十七番賛成、賛成と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)お諮りいたします。

ただいま十八番議員から動議が提出されたのでございますが二十三号議案に関しましては文教民生委員に付託をいたし。こういう御意見でございますが文教民生委員会に付託することに御異議ございませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議なしと認めます。

付託と決定いたします。

なおこの際お諮りいたしておきます。まだ本会議は会期が二十九日まであまざれておりますのでその間付託



ていた案件は文教民生委員会で御審議いただいて今期中に御報告をいただくことに御異議ございませんか。

(「異議なー」と呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君)それではさよう決定いたします。

○九番(安西政治君)文教委員に付託するにあたりましておねがい  
—ておきたいことがございます。というのは私たち吉田議員  
とともに地元におきまして講堂建設に對しまして建設委員  
会というようなものをつくりまして非常に倒れかかったに  
近いような講堂をなんとかこの際という気持ちで地元に  
ありましては講堂の建設に邁進しているわけでございまして  
その気持ちを十二分にお汲取りゆかってこの際なるべくかけ  
せないようだという気持ちも含まれてこういった処置にまたよ  
うでございしますので間違ひなく講堂建設というものができ  
ますようにぜひおねがい—ておく次第でございします。以上です。

議長(石井翠君)つづいて日程才三議案才ニ四号を上程いたします。

(書記朗読)

議案才ニ四号 市有財産の処分について

○総務課長(兒戸貴君)議案才ニ四号につきまゝて少し長くなりますが提案の理由を御説明申上げたいと思います。

この市有地を買いいたいと申請して参りました田村順一氏の所有土地はこの図面で御覧になります通り市有地の接続した個所に土地を持っております。これは当初、現在船形の山本四郎氏の使用になつてゐる土地と一筆になつてゐたものでございます。この土地は昭和二十一年の九月でございまゝたか東京の大森区に住んでおりますところの金原市矢衛という人から飯塚トミと田村順一と両氏の共有名義で買いまゝて二十二年の十二月九日に各分別してそれぞれ所

有するにいたったものでございます。

昭和二十九年でございますが、那古地邑の振興のためというのでこれを昭和女子大学の夏季寮の建設する敷地として売買の拘束をしたものだということでございます。そういうふうにして、いるうちに那古地市の市有地の境界問題が論議されるようになります。土本出張所で国有地と市有地の境界を測定したところ、いままで個人の所有地の境界としてクイがあった箇所よりも市有地の境界が二間あまり上の方になるのが正しいという結果が生まれたのでございます。それでこの結果に基づいて市は田村順一氏にこの境界の変更につきまゝて交渉したところ、土本出張所でそれが正しいということで境界が変更になるならば、新しい境界を認めるという承諾を得たのでございます。ところがその後になりまして

実はいままであった境界のクイをもとにして昭和女子  
大学に売ったものであつて、それだけ少なくなると昭和  
女子大学に對して申しわけなくなるので改めてその分  
だけ市から買つて大学側との約束を果したい。こういう  
申出があつたのでございます。市でも幅は二間三分長さ  
は五十一間三分でございますがこの部分を売りましても  
そう支障もないと考えまして四万七千二百円で売却した  
いとしますのでございます。

○七番(嶋貫壮作君)売却先は田村順一さんですか。

○総務課長(兒戸貴君)そうですね。(異議なしと呼ぶ者  
あり)

○議長(石井潔君)御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君)御異議なしと認めます。

よって本案は原案通り決定いたしました。

○議長(石井潔君)つづいて日程才四議案才二十五号を上程いたします。

(書記朗読)

議案才ニ五号 昭和三十二年度館山市文芸支出追加更正予算  
。建設課長(新井重助君)議案才ニ五号について御説明いたします。  
従前の例によりまして文芸より御説明いたします。

才五款都市計画費におきまして三項公園費に七万九千七百  
四十円を追加いたしましたので、この追加の理由は城山公園に  
登ります登山道路でございますが昨年度四百二十一メー  
トルでありまして本年度下の平地の方を果道より分離  
いたしまして百八十四メートルで中腹まで通することにな  
ります。

本年度の県の工事費は四十一万八千円でございます。これをもちまして全部仕上げるということは土地買収費と地上物件の補償費に七万九千七百四十円だけ不足するというので土地を市で買いまして県に寄付する。補償の方の物件費すなわち補償料を五千六百五十円市で負担いたしまして本工事を完成し公園の整備を回りたいと思ひまして今回七万九千七百四十円の追加をおねがいする次第でございます。以上でございます。

の教務庶務課長(鶴沢貫覚君)オセ教教育費につきまして八万八千六百六十円を追加いたしまして。これは市営プールの揚水用器具として財務部から変圧器二個 電動機一個 揚水ポンプ一個 配電盤一個計五個を借上げております。借上料の告知書が参りましたので追加をおねがいいたします。けでございます。

厚生課長(神作啓次郎君)九款の保健衛生費の七項火葬場  
三目需用費が三万一千三百円不足いたしましてたのでおねがい  
する次第でございます。その内訳は十一の消耗品費の  
四千円これは火葬場の骨受けという鉄板が痛んだ  
ためにおねがいするわけであります。十二の燃料費で  
ございますが二万六千四百円重油が不足いたしましてたの  
でおねがいした次第でございます。十三の借料および損  
料の九百円でございますがこれは火葬場の人口の借上  
料でございます。

九項の環境衛生費の三目需用費の二万七千円これは新  
生活運動優良団体の補助金でございますのでこれを  
交付いたしたいと思ひましておねがいする次第でござ  
います。

商工水産課長(羽山房雄君)オ十款の産業経済費で三万三千

月追加をおねがいいたしまして。

五穀項水産費におきまして、県補助金、小型漁船近代化促進法に基づき、利子補給三万三千円ありますので、これを支出いたしたくおねがいたものであります。なお利子補給につきましても、関係の漁業協同組合より、それゆゑに市を通じて申請がなされたものでありまして、今回船舶<sup>漁</sup>協関係で二件、相次漁協関係で八件あったものであります。以上。

総務課長(兎戸貴君)十六款の予備費は、今回十六万七千八百円を更正減額をいたします。

予備費につきましても、当初予算で三百五十万議決を経たのでございしますが、一月の四日に百万五千五百三十五円更正をいたしまして、現計二百四十九万四千四百六十五円ということになっておりますが、これをさらに十六万七



千八百円更正減にいたして財源にしたいとこういうふうに  
考えるものでございます。結局今回の支出追加更正予算  
額は九万二千四百円でございます。

つぎは支出について申し上げます。

五款の使用料および手数料として火葬場使用料を三万  
千四百円計上いたしました。これは大体火葬場の修繕費  
に充てる財源でございます。

オ七款の県支出金として六万円を計上いたしてござい  
ますが、このうち三万三千円が小型漁船の利子補給に対す  
る県の補助金でございます。これは小型漁船を建造するに  
当りまして金融機関から借りた金の利子を補給する。  
それに対して県が予算の範囲内で補給をしたいという  
ものでございまして相次漁協に対する分が一万七千円、船  
形の漁協に対する分が一万六千円でございます。

でいから新生活運動の補助金として二万七千円ございま  
ーたが、これは先ほどでおで御説明いたーまーた通り  
果から参りまーてただちに支出されるものでございます。  
内訳につきまーて申上げますと上須賀の新生活運動の団  
体に対して九千円、北条小学校の实践事業に対して一万円、  
富崎小学校の分が五千円、神戸小学校に対する分が三千円、  
かういうことになります。以上を合計九万一千四百円という  
ことになります。

○三番(福岡保徳君)教育費の市営プールの揚水用器具借上料  
ですけれども、いつからいつまでの分で、買上げられるもので  
あれば買上げた方がいいと思ひまーて教育長さんにお伺  
いします。

○教委庶務課長(鶴沢貫覚君)お答え申上げます。

期間は昭和二十六年の六月から本年の三月の末日までの分で

でございます。これは買上げるといたりますと大体十二万程度だと思ひます。

○ニニ番(福岡保徳君)十二万くらいだったう買上げた方がいいんじゃないかと思ひます。

教務  
庶務課長(鶴沢貫寛君)お答え申上げます。

財源の關係によりまして本年度追加でもおねがいできればそのようにいたりたいと思ひます。

○三九番(遠山ヨネ子君)火葬上の使用料のことに関連して無料休憩所のことと厚生委員長からなんか申入っていたはずですけどその回答がここでできましてたらおねがいいたします。近所の方が葬式をして相当費用がかかったという話が出たもんですから無料休憩所が更は無料ではなく有料のような形があるものですから委員長からどうということをお聞きになっているはずですがもしそのお答えが差

支えなかつたらうおねがひいたします。

○厚生課長(神作啓次郎君)お答えいたします。

無料休憩所として使用していただいております。

○三番(伊勢仙之助君)私もその点についてその後経過がどうなったかお聞きしたかったんですが、実質的にはどうなんでしょうか、いままでのように経費は出さないけれども、実際にはなんか寄付している夫がどのくらいありますかどうか、その点について相当課長さん御調査なされたことがありますかどうか、純然たる無料だけど基本方針通りおやりになっているかどうか、その点をお尋ねしたいと思っております。

御承知の通り火葬場は支出と支出のからみ合せて九万程度赤字という問題が予算上でたんで私もこの点についてはこんご赤字にならないようにと予算審議の際要望も甲上げておきましたんですが、その問題についてその

後の状況はどういうふうになっておりますか御説明  
ねがいたいと思います。

○厚生課長(神作啓次郎君)お答えいたします。

体憩所ということにつきまゝては無料体憩所と  
て使用していただくように市としてはおねがい  
ております。なおあつこに仏教会がお茶の接待をす  
る。ーかも無料で奉仕をするということでありま  
すが火葬場におまになさつた方がお心持を自主  
的に置いていただいてる人もたまにはある、ある  
いは全然ない。こういうことでもありますがこの  
点についてはとくに仏教会の方へ市はあくま  
でも無料で行くという方針でおねがいでござ  
います。

○三番(伊勢仙之助君)その問題ですが実際に  
市民が金を寄付するということになるとい  
ない性質だけけれども

ふところを痛めるということになつてゐるわけなんです。が御承知のように本年度の当初予算をみますと火葬場も油とか人件費とかそういうもので予算をオーバーして総体的に九万くらいひの赤字が当初予算の中には出ておるんです。がそういう場合無料休憩所から仮に一人一月なり十月という手数料をとって正々堂々と便りせるかどうか火葬場が赤字にならないようにどうお考えになりますか、御意見承りたいと思います。

○厚生課長(神作啓次郎君)お答えいたします。

一応こんご研究してみたいと思います。

○三番(伊勢仙之助君)仏教会があそこで金一封をもらつた場合に仏教会でとるといふ点について私たちとしては市が当然その金をいただくという解釈をとるんですが仏教会がその金をもらうということについて市側としてどういふ

ふうにお考えになっていきますか、その点お尋ねしたいと思ひます。

○市長(田村利男君)お答え申し上げます。

ただいま老人ホームの歩けるおばあさんたちが毎日一名ない—二名ずつ教会が連絡してやるという形をとっており老人ホームのばあさんたちも三十月お礼があると、二十月くらいもうえるというので楽—みに—ているということも聞いておりますがそういうふうに老人ホームのばあさんたちを慰安するということも案外いいんじゃないかと考えています。が市としては十月とか五月とかとる考えはいまのところございません。

○三番(伊勢仙之助君)その問題についていろいろ私たちも意見があるんですが老人ホームに対していままで市の補助というものも全然—ていないというように、なところの問題があらう

かと思ひますが筋としては老人ホームにそういうことをやらせないでその程度の額を補助してやってもいいんじゃないかという考え方もある——仏教会自体本当に奉仕するという考え方ならば金一封はいただかないというのが当然だろうと思ひます。

仏教会にあつてはこを便りせて仏教会がいく分なりとも手数料をとつて金銭的にプラスになるという考え方からおやりになつてゐると——たうこんごうという方法は取止めていただきたい。というのが私たちの希望なんです。この点について将来の運営の方法についてすつきりしたものに——ていただきたいと要望いたします。

○議長(石井衆君)他に御質疑ございせんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

○三番(望月暉作君)公園貫の城山の登り口の石の買収する土地の



問題だろうと思ひますがこのくういの金額で上につなぐようにできますか。

。建設課長(新井重助君)大部分工事は昨年やりまして本年は下の平地から果道までの間です。こゝが百八十四メートルございましてそのうち果が予算以内で買ひまして買えない地所が三十四年度になるんですが市で買収していただければ本年全部できるといふ関係上残った地所だけの問題です。(「異議ナ」と呼ぶ者あり)

。議長(石井潔君)御異議ございせんか。

(「異議ナ」と呼ぶ者あり)

。議長(石井潔君)御異議ナと認めます。

よつて本案は原案通り決定いたしました。

。議長(石井潔君)いはうく休憩いたします。

午後四時二十五分休憩

午後四時四十三分開議

○議長(石井梁君)ただいまの出席議員数三十三名休憩前に引続いて会議を開きます。

○議長(石井梁君)日程オ五議案オ三十号ないー三十三号を括りて議題といたします。

これより三議案に対する特別委員会における審査の経過ならびに結果について予算審査特別委員会委員長への報告を求めます。

四番議員小決光義君御登壇をお願いします。

(小決光義君登壇)

○四番(小決光義君)去る十八日の本会議におきまして予算審査特別委員会に付託となりまして昭和三十三年度各会

計予算案につきまゝして委員会におきまする審査の経過並びに結果を御報告申し上げます。

委員会は三月二十二日本議場において開かれ委員長は不肖の私が勤めることになりました。

本予算は先に市長説明にありまゝた通り昭和三十年度以来自主再建団体として蹶起し短年度内に当初の目的を達成し得たと申さるる前年度より一千余万円増となつております。三十三年度一般会計予算に對しまして建全財政の基礎の確立と相俟つて自治体の機能を發揮するに足る十分な經費の支出所謂政府の提唱するところの「昭和三十三年予算に比し若干の伸びが見込まれる場合にも支出の實質的増加を嚴に抑制する」という趣旨をどの様に折じみ市民の要望に答え得らるるかという観点から致しまして委員会におきまする論

議もこの点活発に且つ広汎多岐に渡りまして慎重に検討された次第であります。

以下委員会におきまします質疑応答等整理いたしましてその要點について申し上げることにいたします。

先ず一般会計支出におきましては市役所費の旅費が昨年度より四〇万円の増で百二十万円となつてゐるがこの金額で今後まゐる追加を求めずにやうていく事が出来るかどうかとの質問に對しましてこの増額は昨年度旅費条例改正によるものが主なる原因でありまして今後におきましても出来る限り出張命令を厳密にいたしましてこの程度でやうていきたい旨の答弁がありました。

次に出張所費におきまして昨年度鎌野出張所廃止の際市長さんの御意見のなかに出張所は改廃統合を行ふと申されましてそれが後のお考え並に見通しについてはと

うかという質問に対して――現状に――して必要でないと思めた場合には廃止すると言う気持は現在も変りありませんが当面の問題といた――して今すぐ廃止するという段階のものはない旨の答弁がありました。

尚出張所問題に関連いた――して部落会長、町内会長率いに運格員の手当等につき――しても充分調査研究の上不均衡の是正と市内一本化に――していただきたい点を要望いた――しました。

次に消防費におき――して消防協会の予算の内容と協会の組織はどのようなになっているか又最近の火災にあき――してタンク車は大きな威力を持っておると聞いておりますが将来ふやす意志があるかどうかとの質問に対して――して千葉県の消防は市と県に支部があり、鉅山市は

千葉県消防協会館山市支部ということとで館山市の消防団  
 を持つて構成していきまして他の団体と同じく消防協会館  
 山支部の活動資金として十九万円を支出し尚運営に当  
 りましては消防協会は市と県の補助でまかなつてあり  
 ます。

タクシー車につきましては現在本署と船形の分遣所に一  
 台ずつ配置してありますが出来るならば富崎地区へ  
 も一台配置したいと考えています。この件について  
 は相当な予算がともないますので富崎の消防車を取  
 換る際に研究したいとの答弁がありました。

土木費におきまして平心地においては舗装等により  
 道路は着々整備されておるのであります。が周辺地区に  
 おいては非常に悪くこれを修理するには地元負担金と  
 地元民の奉仕によつてなされておるのであります。が不完

全な修理の爲僅かの内にまた破損するのであります。総体的に甲—ま—て中心地には多額の修理費が使用されてゐるのに対し—周辺地区は少ない様に思われるがこの維持修理費において周辺地区に使用—た昨年度の維持費がどの位中心部がどの位か又三十三年度において悪い道路をいかに修理—ていくかということに對—まして周辺地区市道の維持修繕につぎま—ては各部落の援助をうけて現在やっておりますは非常に感謝—ていますがい型自動車が従来通ひなかつたような道路へも入ってくる現状で破損度は非常に多くなつてきております。その補修と—ま—ては砂利等も昔のようにな上質なものを得られず御趣旨に添ひ難い莫も多くあると思ひます。

出来得るならば本年度からは良質の砂利を購へ—て

やゝてゆきたいと思ひます。

昨年度の維持費その他について農村方面に支出した額は工事請負費で現計予算二百三十五万八千円に対し六四％に当る百四十一万三千円と原材料費の現計予算八十一万六千円の五一％に当る四十一万七千円が砂利として新市に支出されました。

又市における直営事業の請負工事についてその入札から竣工までの経路についてはどうしてやっているかとの質問に対し――まして土木事業はできれば全部直営でやっているだきたいと考えておりますが技術吏員四名にて天対事業都市計画事業を施行しておりますので人員的に見ましてもなかなか困難であります。

請負の場合実際に現地の調査を一回面を引き設計書を作りそれにより入札の決裁を得請負人を指名して入札



に付して契約—期間をきめてその仕事の竣工を見る  
のであります。

尚請員工事の監督という事につきまゝては御要望のあ  
りまゝたように充分気をつけてやっていきたい旨の答弁  
がありました。

失業対策事業<sup>費</sup>におきまゝて三十三年度の矢野工事箇  
所はどこかという質問に對—まゝて三十三年度は船形  
柵塚の道政改修 宮城ずい道の所の道路拡張、塙見の  
バス停留所東側道路、船形堂の下の海岸道路、九重小  
学校々庭を通じている道路の移転、安東宝貝へ行く道路  
が予定されているもの答弁がありました。

尚矢野事業に関連いた—まゝて重要幹線道路外即ち  
農漁村におきまゝては市民等—く都市計画税を徴収  
してある以上都市計画にのうない農漁村地已にあげる夫

対事業については受益者負担は徴収しないで貰いたい。即ち  
 農漁村から徴収される都市計画税は大体百五十万円之に対  
 一農漁村地已におきます。失業対策事業の受益者負担額  
 は五、六十万でございます。このような点からみましても全  
 市民から徴収される税の均衡ということを考えますと結  
 果的にみましても非常によろしいのではないかと思われま  
 すが市当局の考えはどうかとの質問に對しまして御趣  
 旨はよくわかりましたので研究いたしまして出を得る  
 限り税の月滿徴収の出をますよう努力致したい旨の回答  
 がありました。

教育費につきましてもは營繕費がまだまだ少いように見  
 受けられるが各学校の配分額に對する算出基準と請  
 負工事に對する年度の施行計画についてはどのような  
 一てやっているかとの質問に對しまして配分の基準とい

た—ま—ては昨年度より二割増願いた—ま—たものが  
総体の基準となっておりま—て個々の基準ということではな  
く結局児童一人当りの経費が小学校で八百円中学校で千円  
程度にいた—ま—たもので事業の施行計画につぎま—  
ては本予算確定后委員会に諮りま—て決定いた—た  
い旨の答弁がありました。

尚、餘高に対する三十二年度中市費持出—ほどの程度  
か—という質問に対し—ま—て収入合計六百五十万二千円、  
高等学校費現計予算一千五十万四千円から差引き  
ますと結局四百七万二千円が市費負担となる旨の答弁  
がありました。

その他教育費につぎま—て中学校の統廃合—これに伴  
うスクールバス等の質疑がありましたがいずれも将  
来の問題といた—ま—て研究—たいとの答弁がありま

—た。

保健衛生費にあきまゝては避病舎の問題が主として取上げられております。

避病舎建設については昨年度におきまゝても市長は言明されておりますように一朝事ある場合は重大な問題でありまゝて旧村地区によりまゝては避病舎を取除いた今日早急に建設する意志があるかとの質問に對—まゝて出来得るならば本年度当初予算に計上いた—たい考えでありまゝたがその後他町村との折衝、それに加えまゝて補助金の算上基礎等を検討—てみた処、当初二百万円の持ち出を予想—ていま—たものが、現状におきまゝてはこの何倍かの額が必要となりまゝたので、予算並びに他町村との関係、を現在保健所が主体となりまゝて運動—している旨の回答がありまゝた。

又と場費については七十五万九千円の収入増となっているがと場整備という観点からこれを特別会計としてはどうかとの質問に対してまゝてこの種の問題はほかにもあるのですが一応現在といったまゝては百万円以内の少額ですので将来の問題として研究したい旨の回答がありました。

以上をもちまゝて支出の部は原案通り了承まゝに次でございす。

次に支へに入りまゝて市税において現在のまゝでいくと自然増が相当見込まれるのではないかと思うが自然増分だけでも減税していく意志ありやとの質問に対してまゝて自然増が若干あるからといって措置することは相当危険があることと思う。支出の面においても年々増高を述べているので他に増税の出来ない状態である以

上どうした財源を持って調整していく方針でありまして自然増を減税分にもっていく考えはない旨の回答がありました。承りました。

議案オ三十三号国民健康保険の部にあきまして過般配布をいたしました各地已別の受診率の状況或いは医者代の支払状況によりますと船形地已は特別に支出が多いうです。が市当局においてはこれを調査したかとの質問に承りました。この件につきましては運営委員金でも問題となっており一応病類別統計を作製しこれによつて一人当りの臬数等を比較してどの点に問題があるかという事をまとめたいと考えています。が尚詳細に調査したい旨の回答がありました。本案は了承いたしました。

その他いろいろ活発なる発言があり質疑応答がなされた。

のであります。が最後に委員会といたしまして吾々委員  
会、或いは議会の本会議におきまして述べました意見は  
市民の世論であるという事に考えを致されまして予  
算審議が円満にすぎたという反面来年度におきま  
しては各議員さんの申された御意見や要望につつま  
しては出来得る限り是正、適正に予算案に反映下され  
あらう。面におきまして万全の努力をしていただきた  
い事を強く要望いたしまして本委員会といたしまして  
は付託されまして議案オニ十号乃至オニニ号につつま  
ての採決の方法は先ず議案オニ号一般会計予算を起  
立に求めまして出席委員十一名賛成十名、反対一名  
により可決。

次にオニ一号、オニニ号を一括採決の結果原案通り全  
員一致可決すべきものと認めまして次でございす。

以上をもちまして本委員会の審査の経過並びに結果の報告を終わります。

議長(石井潔君)ただいまの委員長報告に対する質疑を許します。  
三五番(松本藤太郎君)委員長さんにお伺いしますが一六名のうち反対の委員が一名あったという御報告なんですが一六名はもちろん最後に反対であるということはありませんで最初から審議のうちにどういったような問題がでてきておりその結果としてどういうことになったと思うんですがいま委員長さんの報告を聞いておりますとみんな了承して一六名のことをはっきり述べているんですが反対になったところのこと、それを中心とお知らせしたい。

いまひとつは輸入の問題にあつて委員会としても相当自然増を認めた、従つて減税に向ける意思があるかどうかということについてそのような考えはないということでは



了承ということなんです。が一体その金を数字はたーかでないにーても大ずかみの数はわかるはずですがどういふ点に便うんだということを追及したかどうかその点についてお伺いします。

○四番(小沢光義君) 松本議員にお答えいたします。

最初の問題の採決の際の賛成十反対一この結果反対したのはどういふ理由であるかこの点につきまーては反対なされた委員さんは当初からなんといひますか御自分でも。て言明なされてそうーて審議はするがオニ十号議案に對ては了承することができない。こゝういふお話のもとに審議を進めたのであります。反対なされた委員さんも細部にわたって御質疑をいたしました。がオニ十号議案は反対である。こゝういふわけで反対の理由は申されません。オニ番目の三十三年度の予算内容を見ますといひゆる含み財源がある

のではないか。そういう賤源が收入した場合にはどういふ方面へ使われるかという点も質疑がありまして、たがこの案文にもある通り、使い道を慎重にやってくれ、こういう要望もございました。以上でございます。

三番(伊勢仙之助君)委員長の報告のなかに反対の理由がなかったという言葉があったんですが、その点私のいいましたことを聞きまして、たに解いて、まして私は当初から本予算は反対であるという立場をはっきりといたしまして、支出と支出の点について、こういう点が不備だから賛成がたいというふうにはっきり申し上げたつもりでございます。

オ一、点として、支出の面から申し上げますと、支出の全体の客体の把握が過少である点と、支出の面におきましては、教育費の蓄積費が少なすぎる。厚生面においては、避病舎、焼却炉その他積極な厚生面におけるところの予算が当初に見積

うれてない。そういう点が私の反対した理由でありましてそのほか観光面の城山に対する積立金条例があるのにもかかわらず予算に盛ってないということとは、委員会の席上でこの一点だけはいわなかったんですがこういう問題も反対の理由の一環としてあるわけなんです。そういう立場からこの原案に反対であるということをも委員長につけくわえて補足的に申し上げたいと思います。

○二五番(松本藤太郎君)委員長さんにもう一点最後のオ入の問題ですが実際に三十三年度の文入をみるとだれでも過少にみえるんですがその点について実際にまあっやっした通り何もでなかったですか。

○四番(小浜光義君)先ほど甲上げた通り含み財源はある、こういう意見がまよーたがどの目節にあるかということはおまよーした。

○一七番(鳩貫壯作君)委員長さんにお伺いします。

含み財源がどのくらいあるかという当局の御発表はあり  
ませんでしたか。

○四番(浜光義君)会議録へ載せる程度の発言ではなかったと思いま  
すが名を指しますすがたーの高橋委員の方から四、五千万程度の  
含み財源があるんじゃないかこういう発言はありました。

○一七番(鳩貫壯作君)当局の答えがありますませんでしたか。

○四番(浜光義君)当局に答弁をするような発言ではなかったと思  
います。

○三三番(望月暉作君)私が聞きもうしたかも知れませんが委員長に  
お伺いします。

文へを過少に見るということはこれはわかっていますー  
報告にございまーたがそれを追加なんかで出す場合にあい  
てもどういふふうに出すかということがちよっとそこえた

ように聞いておりますが報告文の中をもう一回教えて  
もういたいと思います。

○四番(小矢光義君)望月議員の御質問の点は論議されてい  
ません。(「書いてあつた」と呼ぶ者あり)質問実がよくわかりま  
せんが。

○三番(望月暉作君)再度申し上げます。

又へを過少にみたのでおそれく追加があることと思ひます。  
その過少に見積つた又へについて当局からこういうふう  
に研究してやるんだということを知りまゝたけれども途中の  
言葉が聞きとれませんでした。

○四番(小矢光義君)含み財源のあった場合の処置についてという  
ことは論議されていませんでした。

○五番(松本藤太郎君)そういう、た財源について全然話が出なかつた  
という委員長さんのお答えなんです。これは非常に残念な

ことで私はそういう点を聞いてもらいたかったという  
 気持ちなんです。というのは三十三年度の予算もきょう  
 オ一回の追加更正をして二億九千七百三十五万という金  
 になつてくる。五分か十分前にや、たばかりだ。まゝて出  
 納内鎖期の五月まで●は三千百七十何万ということがこの回  
 たーか総務課長さんの大体の計算が発表されたと思うわけ  
 です。そういうふうになりますとゆうに三十三年度でも  
 三億三千という数字になつてくるわけです。それについ  
 て三十三年度の当初が二億五千何万で建金である。なるほど  
 建金で結構ですけれども当初予算において追加もこれだけ  
 のものがあるけれども大体こういう方法で行きたいとい  
 ういは委員会で発表がねがいたかった。でないとつぎから  
 つぎえと議会があるたびにオ一回更正オ二回追加石かう  
 左へと議会を通過して行、てーまう。こんなに大きく差が

あるとそこになんか明朗を欠くものがあるように感じられてしまふ。不正ではありませんが議会制度である以上もう少しいつたようなものを発表ねがいたい。

委員長さんには申しけませんが二回三回と立って伺い—たんですが最後になんにもなかつたということな  
んで止むを得ません。あとは討論に入って行くより仕方  
ないわけです。

○三番(伊勢仙之助君)委員長として委員長に補足説明—たいと  
思います。委員長もいろいろ取込んでおりまして細かい  
点まで大変だつたろうと思います。

更は追加財源をこんごどういうふうに求めるかという問題  
については私からとくに発言—まして助役さんに聞いたん  
ですがその前に予算の増額という点についてはもちろん  
市長の予算権という問題にかうみ合せて増額する意思

はないかという根本問題から行つたんですが市長に増額する意思ないということになれば二億五千九百万円のワケ内で修正予算とするよりほかに方法がないのでありましてこの点市側より予算を増額する意思はないということをはつきり申されたんで当初予算の増額は市長の方に権限があつて議会側には増額予算を審議する権限というものが市長の予算権を侵害するという建前からできないのでありまして一からばこんご追加予算はどういう形をとるかという債権に対して市側は総体の支入のなかからこんご余剰金が出てきた場合にそれによって追加予算を組みたいという御答弁だったと記憶しておりますがこの責目からいくらみこまいてこの責目からこういうふうに出るという明確な御答弁はなかったようですが支入の総体のなかからでてきた場合に措置したいという御答弁があった



ように記憶しております。以上補促いたします。

○三番(萩生田七郎君)委員長はじめ委員の方の御労苦に感謝を表します。

予算委員長にお伺いしたいんですが端的に二十号議案の反対意見をお持ちになつてゐる伊勢さんに直接質問お許し願ひがいたいと思うんですがよろしいですか。

○四番(小浜光義君)萩生田議員の要望は許可します。

○三番(萩生田七郎君)それでは直接二十号議案に反対の意見表示をなさいます。伊勢議員に伺いたいと思います。

あなたは二十号議案の文へ出るとも反対意見をお持ちになつて意思表示をなされたようでありますが、つぎの点について御意見を承りたいと思います。

オ一は文への含み予算があるという意見がでておつて、あなとも同一の御意見をお持ちのようでありますが、当局

に對して明確に含み予算の御質問をされたかどうか。

それに対して当局から答弁があつたかどうか。

オニ点は少数意見として本予算の一部修正を御要求なさつたことがあるかどうか。おだーにならなければ全面的に反対であつたかどうか。二十号議案に對して全面的な反対のために反対表示をされたか。

最後に少数意見である以上審議の経過において相当重要な御発言があつたと思うんですが委員長から少数意見としての報告がなかつたのであります。その点につきまゝして委員長と打合せなされたかどうか。以上三点につきまゝしてお伺いいたします。

三番(伊勢山之助君)オ一点の含み予算については市側の見解と私たちの見解に多少の相違がありますが予算が過少であるという自分の見解は三十二年度の現計と当初予算に盛り込ま

予算の差額というものが大体一千九百万あるというふうに一応計数的に見たのであります。そういう点から私個人として前年度の支入の面からみて今年度の当初予算の総額はそれだけあるという点から過少額客体を把握しているというふうな見解をとったのであります。

オ二点の修正の意見に對し――そして**は**予算審議の途上にあつてこの予算を増額し得る意思ありや否や。

予算の総額＝億五千九百万をもつと一千万、二千万ふやす意思があるかどうかとお尋ねしたんですが、その意思はさうにない。そういうような見解で修正意見を出してしつゝ内の修正ということに極限されますので無意味だということとで修正動議というものは差控えたのであります。それから最後の一点は少数意見については私といたしましては全体のワクの中で決定に基本的には入らうくないん

だという解釈に立ちまゝて少部分に質問を申上げた程度でありました。オへの過少、教育予算の営繕費が少ない。厚生予算に積極的な予算が盛り込んでいないというこの大きな基本的な三つのものに不満があるという総括的な意見を申上げて個々のかさい問題についてはと場の問題とあるいは火葬場の赤字的な予算の見積りについては赤字にならないように編成すべきだというふうな程度であまり細かい点については意見を申上げなかったのであります。次にであります。

○三番(萩生田七郎君)伊勢議員のお話はよくわかりまゝて、わめて正しい主張に對し、まゝて敬意を表するのであります。本会議の席上で審議するに当りまゝて委員長長の報告についてはやはり重要な意見でありますので載せていただきましたかゝと解釈するのであります。伊勢議員としまして

―ては修正たえ敷いるに―ても、さう―た信念的な行動をとらなかつたことは可否は別といた―ま―て、さう―た行動はこんごあって―かるべきだ。これが本来の姿と解釈するわけであります。

重ねて委員各位に對―て御努力を感謝いた―ます。以上でございます。

○議長(石井潔君) これをもつて質疑を打切り討論がございます。れば討論に移りたいと思ひますが御異議ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君) それでは討論に移ります。

○議長(石井潔君) 討論の御発言なしと認めま―て、ただちに採決に移りたいと思ひます。御異議ございせんか。

○二番(鳩貫壮作君) 採決する前に修正動議を提出いた―ます。里見城建設のために積立金を百万円することに条例が決、

ていると思います。含み財源がないとすれば止むを得ないのであります。含み財源があるとすればこの際止めておく方がよいと思いますので百万円の増額を提出いたします。

○三番(萩生田七郎君)二七番議員の修正動議につきまゝてお伺いたいんであります。が別個に予算を組んで百万円を積むのか予備費の流用かなんかによって積立てるのかその点を伺いたい。

○二七番(嶋貫壮作君)いずれでもよろしうございます。

○三番(伊勢仙之助君)二七番議員に御質問しますがいずれでもというお答えですが最初の増額するという一点については市長の予算権との問題がありましてそういうことはできないというふうに解釈するんですがその点についてどうお考えになつていますか。

○二七番(嶋貫壮作君)私は議会の権能においてできると考えています。

。三番(伊勢仙之助君)先日の委員会に市長さんお出になりません  
でいたので改めてお尋ねしますが予算の増額修正について  
そういう措置が議会側において請ぜられるかどうか予算権  
の問題について市長さんの御見解を承りたいと思います。  
。助役(小出武男君)予算は増額してやる場合にもあるんですが非  
常に提案権とのからみ合わせがあるわけなんです。いわゆる市  
長の提案権を抵触する場合にはできない。ただ個々の問題の一方  
を減らして一方をふやすということでしたらできるわけです。  
増額する場合に財源がないという提案者の確信があった  
場合に議会との見解の相違だけではできないわけです。で  
すからこの間の提案権とのからみ合わせをよく検討されま  
う。兩者話合ひの上でやるのが普通こういう場合の修正になる  
んですがその点を考慮せずしてやられると得てして両方の  
からみ合せの問題で提案権を犯すということになります。

すのでこの点をよく研究せないとただ単純には考えられない。かように考えます。

○議長(石井潔君)――しばらく休憩いたします。

午後五時三十五分休憩

午後五時四十分開議

○議長(石井潔君)休憩前に引続いて会議を開きます。

○一七番(嶋貫壮作君)私がいまさか勘違いをしておったようでありますから提案を取消します。たゞ市長さんにこの際もう一ぺんくどいようであります。が城山の積立金についての御説明をおやがいたります。

○市長(田村利男君)城山の向題でございますが過日本会議でも申し上げました通り条例をつくってあることでありますので



財源に余裕があれば毎年でも積立たいというのが市長の腹のうちでございます。従いまゝて五月以降におきまゝて財源の確定いたしまゝた場合には積立てる意思のあることをはつきり申上げます。

○議長(石井潔君)お諮りいたします。

以上をもつて本予算案に対する討論省畧ただちに表決に付したいと存じますが御異議ございませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君)御異議なしと認めます。

こゝより採決を行います。

○議長(石井潔君)採決の方法についてお諮りいたします。

ただいま議題となつております三議案を一般会計と特別会計とにわけ議案オニ十号をまず採決しつぎに議案オニ十一号とニ十二号の兩議案を一括して採決いたしたいと思ひます。

すが御異議ございませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君)御異議なしと認めます。

よって以上の通り決定いたしました。

○議長(石井潔君)これより議案オ二十号一般会計予算の採決を行います。

本予算案に対する予算審査特別委員会委員長報告は原案可決であります。これに御賛成の諸君の御起立を求めます。

(起立多数)

○議長(石井潔君)起立多数よって議案オ二十号 昭和三十三年度鎌山市マヘ文虫予算は原案通り可決確定をいたしました。  
○議長(石井潔君)つぎに議案オ二十一号ならびにオ二十二号特別会計予算案兩案一括して採決いたします。

本予算案に対する予算審査特別委員会委員長報告は

原案可決であります。こゝに御賛成の諸君の御起立を求めます。

(全員 起立)

議長(石井潔君) 全員起立満場一致議案オニ十三号ならびにニ十三号特別会計予算は原案可決確定をいたしました。

議長(石井潔君) なおこの際申し上げます。

先ほど文教委員会に付託となりました議案オニ十三号に對しましてその後文教委員会におきましては種々手配をいたしてただいま教育委員会の委員長その他を呼びまして事情を聴取の上ただちに付託の議案の処理をいたしたいというところであります。なお時間も定刻間近でございますので延長をいたすことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君)御異議な—と認めます。

よって時間は延長せられました。

○議長(石井潔君)休憩をいたします。

午後五時四十六分休憩

午後六時四十分開議

○議長(石井潔君)休憩前に引続いて会議を開きます。

○議長(石井潔君)先ほど文教民生委員会に付託となりました  
二十三号議案について委員長の報告をおねがいいたします。

(伊勢仙之助君登壇)

○三番(伊勢仙之助君)委員長不手際で遅くまでかかり申わけあり  
ませんが二十三号議案の審査の経過ならびにその結果を  
報告いたします。出席委員八名 全員であります。

まづオ一兵の問題になりましてたのはこのケースは非常に新しいケースであつてこんごどうするかということにつきまゝいろいろな審議いたしましてたんですが教育委員会といたしましてこの問題は今回に限り特例であつてやはり委員会内部にも管理権の行使という問題で地元に任せるということに一部反対意見があつたという審議の過程を知つたわけなんです。最終的にはやろうということに決まりましてたんですが委員会として新しいケースをどうするということについてはこういう見解だというふうな解釈をとつておるようでございます。

つぎに売却の価格であります。が現在寄付しようという材木、その他を価格に見積つたうどの程度だということにつきまして委員会の技師の説明では概略ですが材木だけを薪に換算した場合十五万程度、瓦が十万円、その

まゝ使うという場合に百万以上の見積りということがいえる。こういうふうな回答なのであります。本議会において教育委員会からわれわれに答弁のあります。古材の値段の問題について見積りがまずくて皆さんに御迷惑をかけたという点を認めましたので、一応了承いたしました。地元寄付金はどの程度あるかという問題であります。地元の吉田議員、安西議員さん方がこの問題についてはいろいろ深く探知されておりまして、地元のPTAの責任者もおりますが、その責任者にやりまして、地元議員の二人で責任をもって答えられるということとで、寄付の内容をお聞きまして、たんですが、オーストラリアとしまして、二年間、地元で貯蓄して、まして一戸当り七百二十円で、三百四十戸分、合計三千七百万円現在収納されているそうです。オーストラリア計画として、地元に別に分けますと、洲崎から五万九千円、川名から五万七

千五百四十円 伊戸から五万七千七百七十円 根本から二万三千  
六百九十円 坂足から一万八百三十円 い沼から一万三千六百円 塩  
見のウニから九百八十円 計三十三万一千五百円 オ一次とオ二次の合  
計で六万一千五百円ですがオ二次の三十三万一千円の方は五月  
三十一日までに寄付するという地元の計画だとしてこの  
金額については吉田、安西、両議員が責任をもってかならず  
実行しますということを確認いたしておりますので  
この点も一応了承いたしました。

建設費について地元の寄付はそのようでありますが  
建設する場合に古材はどういうふうに使つかという問  
題をいろいろ委員会の技師さんに質問したんですが古材  
は瓦、柱、土台、建具が若干新しい材料を購入するものはど  
ういうものかといいますと床板、モルタル関係、新しいもの  
の六丁万円の便の方といった――ま――では壁塗装という関係

で二十万くらい、床板とかモルタルでそういう雑品類が二十万入  
件費が十八万というふうな形がでたのであります。坪  
数は六十坪でスレートを使つて屋根をふくというふうになつて  
ありまして残りの材料はどの程度かと申しますと大体厚型  
のスレートが百坪程度そのほか薪の材料程度のもので教育  
委員会の方で管理した方が妥当ではないかという見解にな  
つたわけでございます。

委員会としまして最後に結論的にこれを市でやつた場  
合にはどのくらいかかるかということが論点になつたんで  
すが概算で地元の六十万古材を使つてさらにプラス五十万  
くらいは持ち出しがかかるというのが委員会の技師とし  
ての考え方ですが、<sup>文</sup>教委委員会としても市が五十万円を出  
せるなりは出して地元から六十万受けて古材を使つて  
直営でやる意思はないかということについて市長に



その見解を聞いたんであります。が市長としては地えが折角五十年間というひとつの記念事業として熱意を持って建てようとするところに市が横取りしてやってしまふというのも地えの人のメンツとかそういうものを考えたときにこの際地えに任せた方が止むを得ないけれどもという考え方でありまして委員会として市長さんもそういうふうな考えになってある。五千万円という金についてもそれだけ地えが負担してやるんだという恰好になりますので入件費その他の関係が出てくるわけなんです。がそういう見解をとっております。

文教委員会としても結論を出さなければいけない立場になつたんです。が市で五千万出して直営でやるという考えか。と今回に限って五十年間というふうなものを考慮に入れて止

而を得ないけれども地元に任せてやるという二つに分れた  
 わけなんです。がまずその付帯的な条件といたしまして、建  
 築については地元の委員会に任せ、さらにしないで教育委  
 員会が完成まで責任を持つという一点を委員会に確認し  
 て、さらに古材は委員会において管理してもらおうというこ  
 とで文教委員会として皆さんの意見をとりまいたところ  
 市直営でやるという少数意見がありまいたんですが、今  
 回に限って地元の熱意を買って将来についてこのよう  
 なケースはやりないという確認に立って地元に任かせる  
 というふうに七名の方の六名だけが賛成して下さいます  
 て結論的には今回に限り止むを得ない措置ではあるが  
 地元に任せるといふ結論をいたしました。

重ねて申します。が付帯的な条件として建築について  
 は教育委員会が完成するまで責任を持つ、残りの材料

は委員会において管理する。こういうふうな文教委員  
員会として結論を出さう。たので審査の経過と結果  
を発表いたして報告を終りたいと思います。

三五番(嶋田 繁君)ちやうと一言市直営でやるという意見を  
私は出すんですがこれについて御理解が出来ますか。たかど  
うか気持ちだけ述べさせてもらいたいと思います。

あそこは危険で建てやうなまやならぬという状態にま  
ー迫ってあるということとで起ってきたんですが古材を使う  
地えがやる六十万出すということになります。がそれと六  
十万で可能かどうか六十万で果して予定通りのものができ  
るかどうかと考える。できない場合にやはり地え氏  
にそれだけ負担をさせなきゃならぬという結果にな  
りまして市の建物そこらえるのに地えが六十万出す  
できないとなればまた二十万三十万出さなきゃならない

地え氏に迷惑をかけるということとは気の毒だというようにな感がありまゝたが市でやるのが当然じゃなかろうかと大した願いやないけれどもそういう意見ですから表明しておきます。

三番(望月暉作君) いまの委員長報告で納得してまゝたがこの講堂建設委員会に寄附するものとするところありますが先ほどの報告ですと付帯条件として残ったものは教育委員会が管理するということがございしますがこれで差支えありませんか。

三番(伊勢仙之助君) この点については法文上の問題で地えと委員会とが話し合ひでもしろん地えは自分のものでないといふ見解に立っておりうるようで法文上の訂正をすればなかいんですが大きな問題ではないと思ひます。その点吉田議員あたりに地えととりてはつきりと皆さんに聞いて

おく必要があれば発言していただいても結構だと思ひます。(「異議ナ—」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)ニ二三号議案可決いたしますことに御異議ございせんか。

(「異議ナ—」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議ナ—と認めます。

よってニ二三号議案は原案通り可決いたします。

ニ番(吉田勇治郎君)とくに西小學校だけの問題につきま—ておそくまで慎重に御審議下さいましたことに對—て地元民を代表—ましてここでお礼申上げるものです。審議の過程で申上げました通り作為的の行為でないというのを才一点に織込みぬがいたいことと才二点には御承知の通りの環境にあるということをお認めぬがいます—て

遅くまで御審議いただいたことを重ねて感謝するものであります。

○三番(福岡保徳君)関連——まして常任委員会の活用に伴  
であります。が本日は文教委員長の話があり非常に比  
んである次でありあります。が自治法の百九条の三項、館山市  
議会委員会条例の一条の二項にもあるように目的は、き  
りてありますので常任委員会の活用がよければこの  
ようなこともなかったと考えらる——先にも消防委  
員のことと聞いておりますので議会において付託—  
なくともできるように解釈されますのでその点、見  
解をはっきりして委任委員会、活用を——していただき  
たい。かように考えるものであります。て当局の考え方を  
聞かせねがいます。

○市長(田村男君)大変ありがたいお叱りであり、とうござ

います。ただ事前審議というふうにとらひやすい点も  
こんご注意——まゝて常任委員会に御審議ねがふことに  
いたしたいと思います。

○二三番(福岡保徳君)よくわかりまゝたけれども私の解釈  
でいいますと常任委員会は議会の議決で付議されないくて  
もできる——事前審議でいくこともできると思ひますの  
でよろしくおねがいいたします。

○議長(石井梁君)以上をもちまゝて三月十日招集のオ一回定例  
会の議事を全部議了いたしまゝた。これをもちて閉会と  
いたします。

長い間ご苦勞をいただきまゝて誠にありがとうございます  
いまゝた。

午後七時閉会

昭和三十三年三月二十四日

一 鎮山市議會

鎮山市議會議長

會議錄署名議員

同

石井 安西政務  
館本 存



